

週日の説教

金 大烈 神父 2011年7月13日(水)

《追悼に思う ～川田角五郎様一年忌～》

角五郎様を逝かせてからこのように時間が経ちました。2、3日前に、以前に撮ったパソコンの中にあるこの教会の信者さんの写真を振りかえって見る時間を取りました。笑顔で写っている一人一人の顔には、思い起こす色々な出来ごとがその写真に描かれています。その中で数多く方が今はいらっしゃいません。私がこの教会に来てから5年目になりますが、その間で逝かせた方が30人近くいらっしゃるのです。この前の復活祭の時、私が皆様にミサベールを差し上げた時がありましたね。その時、角五郎様も一番前の席で私がそのベールを皆さんにかぶせて祝福するのを見ながら、幼子のような笑顔でご覧になっているその姿が目に入りました。

今日、奥様とご兄弟親族の皆様が来られて、このように追悼ミサを捧げています。これは自分の感というのでしょうか、彼はすでにいい所へ旅立たれたと思います。逝かれた方を心配することより生き残っている私たちをもっと強く心配する方が、お父さんにとっても相応しいことではとっております。

お父さんが倒れてから奥様が一生懸命に色々なことをなさいました。そしてお父さんが逝かれてからまもなく、奥様自身が倒れました。そして結構短くない時間を病院で過ごされ、今は回復なさってまた教会にお見えになったことは理解出来ることですよね。

皆様、ちょっと私の立場に立って頂けますか。私は司祭として色々な務めがあるのですが、そのなかの一つは人の生まれ誕生日、いわゆる「生」と、そしてその生きている間の靈魂の靈的な導きでしょう。そして人間としての最後の仕上げ、いわゆる「死」についても私は関わっています。これは司祭のある意味での主な務めだと思えます。このような仕事をしながら、おそらく皆様と同じことを体験しても、皆様よりももっと何回も繰り返して考えなければいけないことが多いと思えます。そういう意味で自分が感じた結論として、どうにかまとめた内容を皆様に紹介しながら分かち合うことです。もちろん悲しみも毎回感じています。もっと司祭としてやってあげられることがあったらよかったのという心も率直にあります。個人的に色々な関わりもありましたが最後の思い出としては、私が角五郎様にどうにか受け入れられたという記憶があってひと安心しました。

このミサを通してお願いを致します。私達の「死」について、そして私達の「生」についても一緒に考えて、後悔が減るその人生を送ろうという気持ちで皆様が考えて頂ければいいのではないかと思います。奥様もお体をお大事になさって下さい。奥様がしなければいけないことは色々あると思いますが、私の目では一番が信仰の生活だと思えます。今出来る限り最善を尽くしてこの信仰の生活なされば、色々な痛み、恐れ、悲しみ、ある意味では無力感からも解放されるその知恵が与えられると思えます。

ありがとうございました。